

The 悩める 歯科衛生士

～判断力・診査編～

執筆

荒井和美／安藤峰子／居相静香／岩田美紀／
宇津木三奈／大矢真由美／小保内伸子／小山田 薫／
柏井伸子／金森奈緒子／北 真由美／木幡紀子／
佐藤久美子／清水京子／杉本理奈／高橋路代／
津野あや／中別府洋子／長山和枝／野島由香／
日野仁美／山口志穂／山口菜穂子

アドバイス執筆

安生朝子／伊藤弥生／小谷いずみ／小西昭彦／
実野典子／土屋和子

歯科衛生士編集部・編

私の悩みを
聞いて
ください!

唾液検査結果では
リスクが低いのに、
口腔内はう蝕だらけ!

こんな経験
ありませんか?

治りそうで治らない
歯肉、どうしたら
いいの?

メンテナンス間隔
を開けたいけど、
なんとなく不安。

ブローピング値は
3mm以内なのに、
出血が止まらない!

そんなあなたに
おすすめ!

- ◎判断力・診査に関する16の悩みを
取り上げ、解決策や課題を収録。
- ◎ベテラン歯科衛生士の洞察力に
富んだアドバイスも!
- ◎悩み解決までのプロセスを知ること
で、自身の考える力も身につく!

悩み解決のヒントが満載!



●サイズ:A4判変型 ●156ページ ●定価:6,825円(本体6,500円・税5%)



クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL 03-5842-2272 (営業) FAX 03-5800-7592 <http://www.quint-j.co.jp/> e-mail mb@quint-j.co.jp

★あなたなら、この悩みにどう対処する？★



私の悩み～メンテナンス間隔の決め手について～

疑問
患者さんは、24歳の女性で歯肉の腫れを主訴に来院されました。歯肉にコアボットシステム®を装着して1年半は経過しましたが、全体のブレードがゴロリと音が響き、下部歯肉部の腫れ・発赤が認められました。口内を視し、程度は軽度と判断されました(図1～3)。

診察・問診時には、視診と今時の歯肉計測を併用し、歯肉の腫れと口内音について説明しました。すると、それがコアボットシステム®より、下部歯肉に起こる

お悩みを把握したところ、すでに腫れがみられたため、コアボットシステム®ブレードの交換(図4)を行いました。

再診時、患者さんは歯が動いたかと思った様子でした。また、歯は手術後痛がため、ブレードがゴロリと音でできておらず、ごまかす、またお悩みをあげるような感じが戻らなくなりました(図5、6)。そこで、交換もすめで済ませましたが、患者さんは「歯がゴロリと音でなくなると安心する」とおっしゃる。自らメンテナンスを受け入れてくださりました。

この症例メンテナンスに入り直した時、初期を想定する際、私は、患者さんが歯の動いたことと関係していたことを考慮し、メンテナンスのブレード交換をすすめました。

メンテナンス時、患者さんは歯が動いたかと思いましたが、歯が動いていないことと、歯がゴロリと音でなくなりました。手術後には歯がゴロリと音でなくなると安心する、メンテナンス間隔を3ヵ月に設定し、現在も高い状態で経過しています。

症例とともに、
悩みを簡潔に紹介！



分析した結果を基にした
対策や今後の課題まで、悩み解決
までのプロセスを掲載！

**本書では
こんなふうに解決！**

頼れる先輩の
アドバイスつき！



悩みに対して私がしたこと・考えたこと

症例においては、患者さんがご自身の口内音の動いたことについて、お悩みの原因を考慮し、メンテナンスのブレード交換を勧めました。しかし、そこから経過すると、私は患者さんが気にするほどの高い音は聞かれず、音が軽減でした。また、口内音の動いたことと、歯肉の腫れを主訴に来院されました。歯肉にコアボットシステム®を装着して1年半は経過しましたが、全体のブレードがゴロリと音が響き、下部歯肉部の腫れ・発赤が認められました。口内を視し、程度は軽度と判断されました(図1～3)。

診察・問診時には、視診と今時の歯肉計測を併用し、歯肉の腫れと口内音について説明しました。すると、それがコアボットシステム®より、下部歯肉に起こる

お悩みを把握したところ、すでに腫れがみられたため、コアボットシステム®ブレードの交換(図4)を行いました。

再診時、患者さんは歯が動いたかと思った様子でした。また、歯は手術後痛がため、ブレードがゴロリと音でできておらず、ごまかす、またお悩みをあげるような感じが戻らなくなりました(図5、6)。そこで、交換もすめで済ませましたが、患者さんは「歯がゴロリと音でなくなると安心する」とおっしゃる。自らメンテナンスを受け入れてくださりました。

この症例メンテナンスに入り直した時、初期を想定する際、私は、患者さんが歯の動いたことと関係していたことを考慮し、メンテナンスのブレード交換をすすめました。

メンテナンス時、患者さんは歯が動いたかと思いましたが、歯が動いていないことと、歯がゴロリと音でなくなりました。手術後には歯がゴロリと音でなくなると安心する、メンテナンス間隔を3ヵ月に設定し、現在も高い状態で経過しています。

今後の課題

今回のメンテナンスで気づいたこと、私は患者さんが自分のメンテナンスのブレード交換を勧めました。しかし、そこから経過すると、私は患者さんが気にするほどの高い音は聞かれず、音が軽減でした。また、口内音の動いたことと、歯肉の腫れを主訴に来院されました。歯肉にコアボットシステム®を装着して1年半は経過しましたが、全体のブレードがゴロリと音が響き、下部歯肉部の腫れ・発赤が認められました。口内を視し、程度は軽度と判断されました(図1～3)。

診察・問診時には、視診と今時の歯肉計測を併用し、歯肉の腫れと口内音について説明しました。すると、それがコアボットシステム®より、下部歯肉に起こる

お悩みを把握したところ、すでに腫れがみられたため、コアボットシステム®ブレードの交換(図4)を行いました。

再診時、患者さんは歯が動いたかと思った様子でした。また、歯は手術後痛がため、ブレードがゴロリと音でできておらず、ごまかす、またお悩みをあげるような感じが戻らなくなりました(図5、6)。そこで、交換もすめで済ませましたが、患者さんは「歯がゴロリと音でなくなると安心する」とおっしゃる。自らメンテナンスを受け入れてくださりました。

この症例メンテナンスに入り直した時、初期を想定する際、私は、患者さんが歯の動いたことと関係していたことを考慮し、メンテナンスのブレード交換をすすめました。

メンテナンス時、患者さんは歯が動いたかと思いましたが、歯が動いていないことと、歯がゴロリと音でなくなりました。手術後には歯がゴロリと音でなくなると安心する、メンテナンス間隔を3ヵ月に設定し、現在も高い状態で経過しています。

**先輩歯科衛生士
からのアドバイス**

長い経過を辿って来たもの

小児科/矯正科/歯肉科/歯槽膿漏科

症例を踏まえてお話しするのは、「患者さんの希望を聞く」ということ以上に、自身のメンテナンスの期間を定める基準に基準を設けていない点に注意する必要があります。通常、メンテナンスの間隔を3ヵ月に設定し、現在も高い状態で経過しています。

きりとり編

注文書

The 悩める歯科衛生士 ~判断力・診査編~ 私の悩みを聞いてください!
モリタ商品コード:805351

冊注文します。

●お名前	●医院名	●ご指定納入店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	

支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定納入店がない場合は送料を頂き、代金引換宅急便でお送りさせていただきます。